



野獣の次元界

開始条件: レベル5のサモナー

目的: 敵の全滅

序幕:

自分の力が弱まりつつある。ほとんど感知できないくらいだが、いま悟った。あまたの次元界から何かを取り出すたび、少しずつそれを実行するのが難しくなっている。他の次元界より引き戻してくる力を感じていた。

それが最初の考えだったが、この現象を調査するうち、実際に引力がある次元界は、たったひとつであることに気がついた。たくさんの仲間を引っ張り出してくる界。野獣の次元界だ。

好奇心がそそられた。だから答えを求め、危険な生き物で一杯な混沌の界、すなわち野獣の次元界へと足を踏み入れた。答えが得られるまで、さほど時間を要しなかった。

「厚かましい奴め」声が木々を通して響き渡る。「第一に、お前はわたしの忠実なしもべたちを故郷からさらい、お前の気まぐれに応じて、打ちのめさせたり、屠らせたりした。次に、お前はわたしの力に少しも敬意を払わず、わたしの聖域に足を踏み入れた。だからわたしは、お前自身が、お前が呼び寄せたものの同族の手にかかり、バラバラに引き裂かれるところを見て楽しむでしょう」

数の中からガサガサとする音が響いてくる。戦いの準備をしよう。

特別ルール:

最初のラウンド終了時、通常モンスターの恐狼を1体、ヘクス **a** に配置します。第2ラウンド終了時、通常モンスターの唾吐きドレークを1体、ヘクス **b** に配置します。第3ラウンド終了時、通常モンスターの恐狼を **c** の各ヘクスに1体ずつ (計2体) 配置します。第4ラウンド終了時、通常モンスターの唾吐きドレークを1体、ヘクス **d** に配置します。これら全敵を倒したら **1** を読んでください。



「無礼者め!」声は大きくなり、さらにすぐ近くで聞こえた。「その力と支配に対する欲望は、お前を破滅に導くだろう。お前はいつでもわたしの領地から逃げることができた。しかしお前は残った。何でも望むものを得られる力があると確信してな。知識に対する探究には、終わりがないと考えているのだろう。だが、それは間違っている。それはここで終わるのだ。わたしがそれを終わらせよう!」

特別ルール:

上級モンスターの洞熊を1体、ヘクス **e** に配置します。そのHPは $H \times 2$ です。Hは、洞熊の通常のHPの値です。

終幕:

精霊は咆哮し、風の中に消え失せた。あとには小さな半透明の獣のかたちをした宝石が残っていた。

「お前の力は本当に強い」精霊の声は、今では柔和になっていた。その大半が、空気を漂う囁き声と化していた。「おそらく、間違っていたのはわたしのほうだろう。お前はわたしの敬意と忠誠とを勝ち取った。その力を用い、戦いにおいて、わたしのしもべたちを守ってほしい」

報酬:

アイテム 142 番〈転移の偶像〉

使用する地形タイル:

L1b
L3a

